

別紙4(調査研究費)

調査報告書

令和元年10月31日

木津川市議会議長 山本 和延 様

会派名 和みの会

会派代表者 長岡 一夫

議員名 長岡一夫、高味孝之、炭本範子、
森本 茂

調査期日	令和元年10月9日(水) ~ 令和元年10月10日(木)
調査先	① 福岡県宗像市 10月9日(水)「認知症ケアパスを含めた認知症対策の現状と課題」 ② 佐賀県みやき町 10月10日(木)「スマート農業推進による一次産業活性化事業」
参加者氏名	長岡 一夫、炭本 範子、森本 茂
調査項目等	別紙

和みの会 管外研修報告書

○日 時 令和元年10月9日（水）
午後2時00分～午後3時30分（約1時間半程度）
○研修者 3人（長岡、炭本、森本茂）
○研修事項 福岡県宗像市
認知症ケアパスを含めた認知症対策の現状と課題について

令和元年10月9日、福岡県宗像市に、認知症対策と現状について研修を行いました。

宗像市の介護認定における認知症高齢者は、平成31年4月1日時点で4296人で、

- ①基幹型地域包括支援センター設置。
- ②日常生活圏域を担当する地域包括支援センター6カ所設置。

認知症地域支援推進員は、保健師・看護師・作業療法士・歯科衛生士・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士の七人を認知症地域支援推進員に任命された。

また、認知症サポーター養成講座の積極的展開や、平成30年度の実績では、一般講座25回814人、小中学生講座9回752人の参加であった。

また、認知症初期集中支援チームは、宗像医師会の絶大な協力により設置ができたとのことであった。

そして、家族を支える支援策は、地域包括支援センターを設置し、身近に相談できる環境としての認知症カフェの開催、本人ミーティングの開催などを行っておられた。また、そして、認知症ケアパスを平成30年度全戸配布された。

特徴としては、

- ① 日常生活圏を担当する地域包括支援センター6カ所すべてに設置して総合相談から一貫して対応。
- ② 事案の有無に関係なく定例のチーム員会議を毎月開催し、日ごろから専門職と専門医が顔の見える関係を構築。
- ③ 臨時のチーム員会議を開催して、市民が専門の医療機関を受診しやすい状況を醸成。

木津川市の認知症対策を進めていく上で多いに参考になる研修でありました。

○日 時 令和元年10月10日（木）
午前10時30分～正午（約1時間半程度）
○研修者 3人（長岡、炭本、森本茂）
○研修事項 福岡県宗像市
スマート農業推進による一次産業活性化事業について

令和元年10月10日、佐賀県みさき町でA I 農業の取り組みについて研修を行いました。

みさき町は、平成30年度よりA I とI O Tを活用した「スマート農業」を普及させる実証実験をスタートさせて、（株）オプティムと共同で実施している。

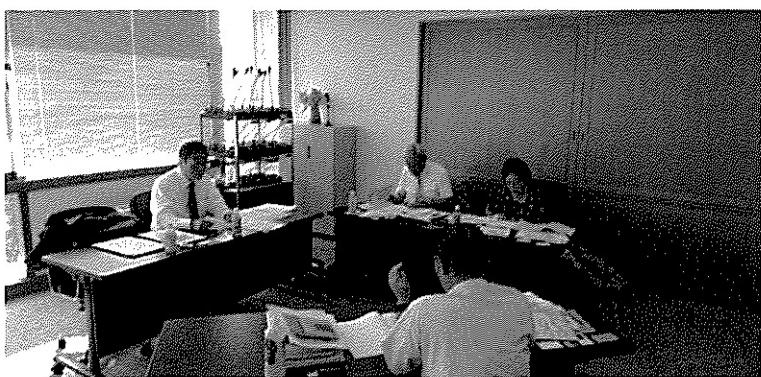
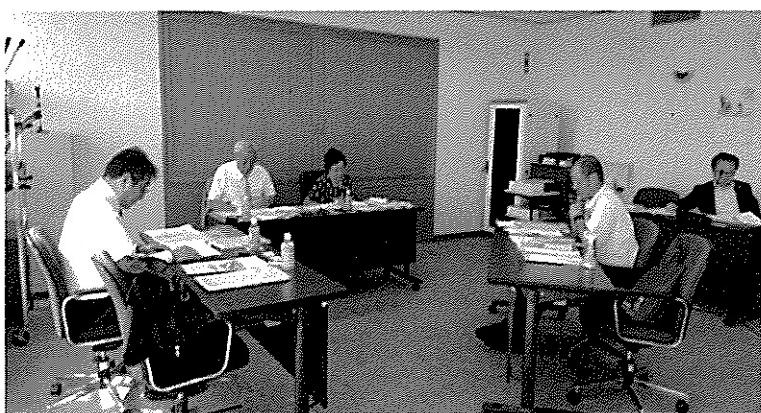
遊休農地の有効活用と新規就農者の増加を狙っているとのことであった。

- ①課題＝後継者不足による就農人口の減少。
- ②取組＝ドローンを使ったほ場の撮影、A I による画像解析、害虫の発生部分にドローンでの農薬散布の実施。
- ③成果＝生産者の労力の省力化、農薬代の縮減、生産品のハイブランド化を目指す。

以上のような課題の解決に繋げていきたいとのことでありました。

木津川市においても、ドローンが普及し、活躍することが必要だと感じました。

宗像市（10月9日）





みやき町（10月10日）



